

# 綾部市の公共交通政策に関する提言書

～いつでも だれでも どこへでも

ドア to ドアの新交通導入を～

令和6年3月

綾 部 市 議 会

綾部市では、2023年（令和5年）4月に今後10年間を見通した綾部市公共交通計画を定められ、本計画に基づいて、市民の移動手段の確保に向けて各種施策を実施されようとしているところです。本計画は、2033年（令和15年）までの長期にわたる計画のため、中間点となる5年後の2028年（令和10年）には見直しも図ることとされております。

綾部市議会では、去る2023年（令和5年）8月に市内の各地域の自治会役員の皆様と「AYAまちトーク」と題して市民と議会の集いを開催し、公共交通問題に対する意見交換会を開催し、別添のとおりご意見をいただいたところです。

とりわけ「あやバスの利便性・財政負担」「ラストワンマイル対策」「福祉有償運送」「JRの利用」など多岐にわたり切実なご意見・ご要望を伺いました。

また、他都市で実施されている「デマンドタクシー」や政府が導入を決定した「ライドシェア」の取組も、本市においても非常に重要な課題であると考えます。

提言に当たっては、地域公共交通計画の再確認、NPO法人あやべ福祉フロンティア（以下「福祉フロンティア」という）、日本交通株式会社、あやべ介護タクシー事業者などの現状や課題について調査、交通空白有地償還事業の取組経過や内容・現状などについて学び、市民の皆様の様々な意見も参考に議論を重ねてきました。

つきましては、綾部市議会基本条例第5条第4項に基づき、公共交通政策に関する提言を取りまとめましたので、今後の公共交通政策に生かされることを望みます。

令和6年3月

綾 部 市 議 会

## 1 本市の公共交通に関する現状

本市においては、347㎢の広大な市域に小集落が点在し人口の過疎化と高齢化が進行している現状があります。一方で、綾部・中筋地域においては、人口の集積が進んでおり、いわゆるコンパクト化が進んでいます。

本市では、このような地域の特性に鑑み、人口減少と過疎化が進行する市街地以遠を中心に幹線道路に市営バス「あやバス」を定時定路線で運行させるとともに、一方で、市営バスで運行困難な地域での交通空白地有償運送事業などへの財政的支援や、高齢者等への医療機関への移送サービスを行っている福祉フロンティアへの財政的支援を、また近年では、夜間のタクシー不足対策としてのタクシー会社への財政支援も始めたところです。

しかし、いつでもどこでも市民が自由に移動できるというニーズの充足には満足な対応が出来ていないのが現状であり、公共交通の主軸を担うあやバスにおいては、自宅からバス停への距離、さらなる路線増、バス停の環境改善、増便や終発時間の延長など様々な課題が存在しています。加えて、運転手の高齢化や利用者数の減少、燃料費の高騰により、綾部市一般財源からの繰り出しは、年間約1億円と年々増加している現状であり、持続的な運営には大きな課題があります。

また、路線バス空白地においては、より課題は深刻であり、福祉フロンティアの活用や交通空白地有償運送など新たな取組を実施されている地域もありますが、利便性の課題に加え、運転手の高齢化や報酬面など同じく持続的な運営に課題があるのが現状です。

人口減少及び高齢化がますます進行し、広域な市域を擁する本市において、市民が安心して生活し続けるため、また、夜間の交通手段確保など地域経済を守るためにも、人員や財政面に考慮しつつ、市民ニーズに一定対応できる持続的で新しい公共交通の仕組みづくりが求められています。

## 2 公共交通施策の方向性に関する提言

### 目指すべき公共交通の将来像

ドア to ドアの予約制の乗り合いデマンド型交通の導入により、少数で生活する地域でも市街地でもいつでも、だれでも、どこへでも移動できる公共交通の実現を。

### 《短期的な提言》

#### (1) 全般的事項

- ・新たな公共交通の実現に向け、公共交通に携わる各事業者や各公共交通サービス利用者及び利用されていない市民も含め、広くニーズの把握を実施されたい。
- ・岡山県総社市の「雪舟くん」などの予約制のデマンド型交通やライドシェアなど新しい公共交通導入に向けた課題の整理とタクシー事業者など協同体制について検討されたい。

なお、ライドシェアについては、安全性や担い手となる一般ドライバーの確保などについて課題を整理されたい。

- ・どのような方法であっても地域公共交通は、住民の移動権を保障するために不可欠であることから、国に財源確保を求め、国との協力体制を構築されたい。

#### (2) あやバスの改善点

##### ○運行計画の見直し

- ・利用者の多い通勤通学時間帯を中心に、利用状況、ニーズに合わせた路線やJRとの連携などに重点をおいたダイヤの最適化、運行計画の検討・見直しを実施し、2027年（令和9年）のダイヤ改正時の実施を目標に運行コストの削減、効率的な運行を目指されたい。

##### ○運賃体系の見直しと収益向上

- ・利用者のニーズを考慮して、運賃の見直しや新しい運賃プランの導入を検討し、車内広告やパートナーシップによる収益向上を図られたい。

##### ○乗車特典の新たな創設、周知及び利用の促進

- ・高齢者や障害のある方々に健康長寿定期券の利用促進や車椅子でも利用できることのPRを行われたい。
- ・子どもや若い世代向けの乗車の工夫を図り、地域の施設や観光スポットとの連携を強化されたい。
- ・あやバスを利用したことない方が一定数存在するため、地域行事とのタイアッ

ブ等により、新規顧客獲得施策の充実を図られたい。

### ○バス停の改善

- ・バス停留所の環境を改善するために、ベンチの設置や、ベンチを設置する団体等への補助施策等を実施されたい。

## (3) あやバス以外の公共交通

### ○福祉フロンティア（福祉有償運送事業）

- ・福祉フロンティアについて、運営の持続性と福祉的側面から課題を精査し、市と協働強化の方向性を探るなど、人的・財政的支援を行われたい。
- ・運転ボランティアが参加しやすい制度・システムを団体と協力し支援を行われたい。とりわけ、昨今のガソリン価格の高騰に対する団体への財政支援を行われたい。

### ○地域内交通（交通空白地有償運送事業）

- ・地域内交通について、その取組状況と効果を精査し、更なる利便性の向上と運営の持続性確保について検討を行い、支援されたい。
- ・現状の交通空白地有償運送事業補助金は、バスによる定時定路線の運行を想定して策定されており、自家用車によるデマンド方式の運行をする場合に、利用しにくい部分がある。補助金の内容を見直すとともに、補助率についても、改定を行われたい。
- ・現状では、運営に一定の維持費が必要なため、運転手の賃金まで予算があまりまわせないことが運転手確保の困難性の原因のひとつとなっている。みせんバスは、地区内住民の運行負担がなければ運転手の賃金支払いが厳しい状況である。運営状況をみながら、行政の更なる支援を行われたい。
- ・地域内交通を実施する場合には、近畿運輸局の認可が必要となる。取り組むたいと考えている地域はある一方、申請事務などに不安を感じている地域もある。各種説明会の実施や事務を補助する体制の整備など、地域に寄り添った支援ができるよう体制を構築されたい。
- ・タクシー事業者と地域内交通を実施する事業者が連携し、事業に取り組むことができるよう、協力関係が構築できる支援体制を整えられたい。

### ○タクシー

- ・タクシー業界への財政支援を継続し、深夜でも市民の移動手段が確保できるよう国に財政支援を働きかけられたい。

## 《 5年後を見据えた中期的な提言》

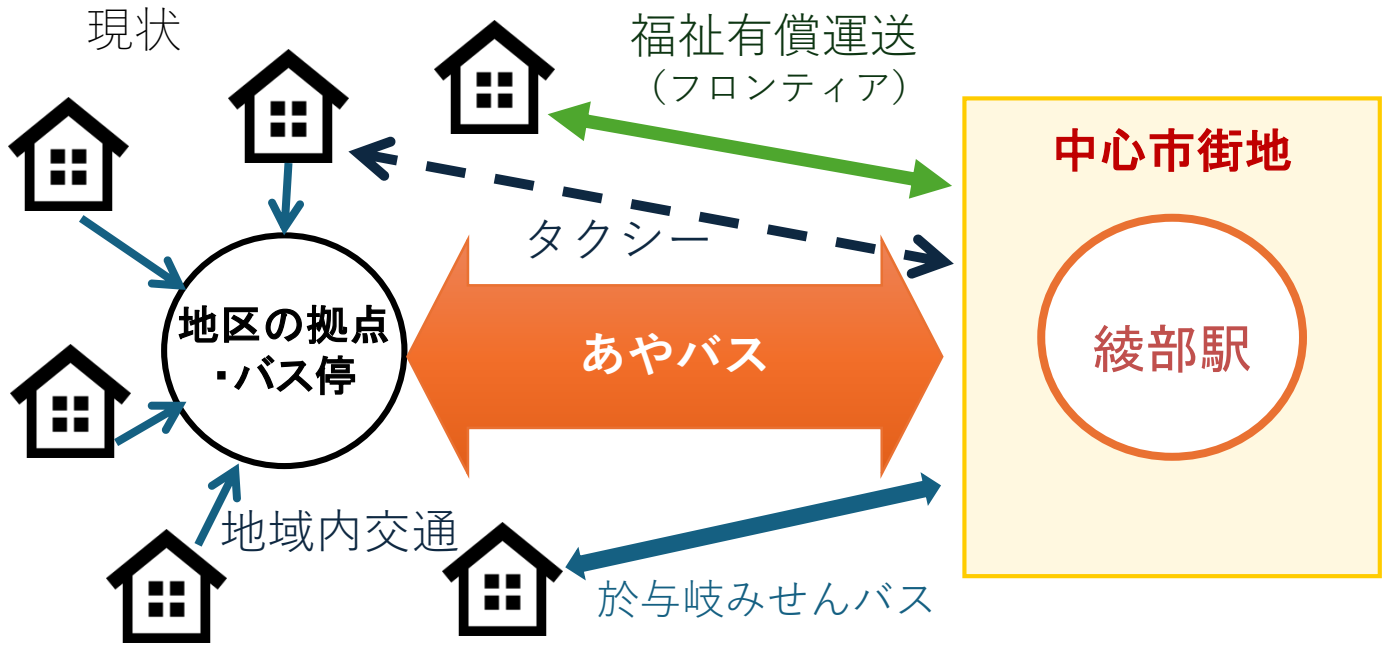
- ・あやバスによる定時定路線による運行やタクシー、福祉有償運送、予約制の乗り合いデマンド型交通（ドア to ドア）などの新たな公共交通システムのベストミックスによる市民ニーズに合致した綾部モデルの実現を図りたい。
- ・現行のあやバスを通勤通学時間帯のみ現状どおり市内全域で運行させ、日中や土日（要ニーズ調査）の路線バス閑散時間帯は、ライドシェアの導入や綾部市・あやバス委託運行事業者・タクシー事業者・福祉フロンティア等で業務連携し、予約制の乗り合いデマンド型交通（ドア to ドア）を実施されたい。
- ・ニーズ調査により、市街地内での移動需要がある場合は、デマンド型交通より安価に移動できる手段として、主だった地点を經由する市街地循環路線の新設を検討されたい。
- ・自動運転技術を取り入れるためのインフラの整備を推進するなど、国の動向を注視しつつ、自動運転技術等の導入に向けた取組を進められたい。

## 《 10年後を見据えた長期的な提言》

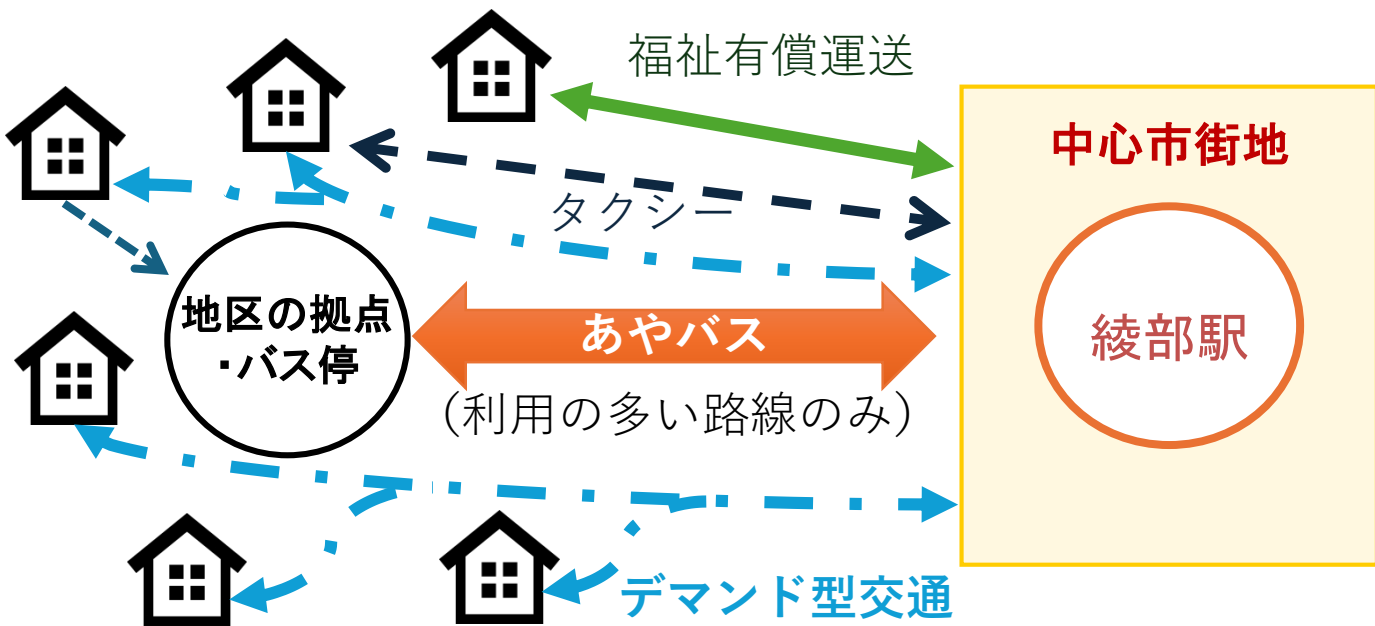
- ・10年後にはますます人口減少が進み、あやバスは乗車効率の低下が予想される。それまでに、乗客データや運行データの解析などAIを活用して、地域の特性や需要に合わせた、より精密な需要予測や運行計画を策定し、運行効率を継続的に向上させていきたい。
- ・具体的には、予約制の乗り合いデマンド型交通（ドア to ドア）または安全性等が確認されたライドシェアをメインに運行することで、現在の交通空白地有償運送事業はデマンド交通へ移行でき、またあやバスの運行効率を改善することで維持経費を削減し、これまで以上に市民ニーズに対応した持続可能な公共交通を確立されたい。

# 綾部市の公共交通政策に関する提言

～いつでも だれでも どこへでも ドア to ドアの新交通導入を～



提言で目指す方向



タクシー事業者等との連携による予約制の乗り合いデマンド型交通 (ドア to ドア) または ライドシェア の実施